

フォラルルベルク州クライミング

【報 告 者】N本

【日 時】2017年9月26日-10月3日

【参 加 者】N本

《 報 告 》

今秋、チェコ人の友人と同じ時期に連休が取得できそうであったので、ヨーロッパ遠征を企画した。〇〇を登るという明確な目標はないものの、初めてのヨーロッパでマイナーエリアに登りたいと思いチェコ人チームのトリップに同行した。

日本から一人を予定していたが、直前に友人Uが同行できることとなったので計画書が修正となったことをここにお詫びしたい。

9/26 07:50 福岡空港→10:30 関西空港→15:20 パリ (CDG空港) →レンタカーを借りパリ空港、Uは別便の為 21:00 に合流→N本友人が住むナンシーに向い就寝。

9/27 午前中にナンシーを観光後、キャンプの食材を買い出しに行く。フランスは乳製品が異常に安い。友人が同行してくれたので良かったが、水も炭酸水だったりするので多少の語学や文化背景をしっておくことが必要だと感じた。午後はドイツザールブリュッケンにこれまた友人を訪ねていく。教会が美しく、これまたチーズがおいしい。ちなみにナンシーは小さい村で、ガス缶を購入することはできなかったのでザールブリュッケンにて購入。お店は 17 時ごろには閉まるし、日曜は飲食店以外営業していないので注意が必要だ。チェコ組が出発したとの連絡を受け、集合場所へ向かう。

9/28 02:00 ; オーストリア フォラルルベルク州の集合場所に到着。(47.4901649N 9.7474688E) 到着するとチェコ組はすでに到着しブルーシートの上にマット寝袋で野ざらしで寝ていた。さすがワイルド。朝起床し D と約 5 年ぶりに再会。チェコ組は総勢 7 人で車 2 台であった。朝食を済ませ、初日はフリークライミングのため、若干の移動。

Burgrestaurant Gebhardsberg という岩の上にあるレストランの付近に岩場が広がっている。

(*写真1) 奇妙な岩質で下は小石がうずまったようなごつごつしたフランケンユーロのような岩質なのだが上部は真っ赤な砂岩となっている、堆積の違いでこのようになっているらしい。Vorarlberg Kanzele エリアで終日クライミング。終了点からはボーデン湖や街並みが見え美しい。グレード表記は UIAA.クリップが悪いからとトプロープでトライしたルートは、1ピン目をかけるまでに4, 5回フォールした。チェコ人クライマーは強い 10-(5.13c)を登る女性もいた。上部の砂岩は非常に安定しており横クラックが多数走っていた。

上部に降りロープにおもりを付けた後に、ユマールで自分のハーネスとロープを連結し一人で登るソロスタイルの人を多く見かけた。ルートが屈曲していなければこのような練習方法があることを学んだ。

夜は近くの駐車場で野営。ガスタンクを用いキャンピング用品が揃うチェコ組と地べたにブルーシートを広げお茶の間スタイルの日本チーム。酒とさきいかを振る舞うチェコ組は

あまり酒を飲まなかった。そう、登りに来てますからね！

9/28 はマルチの為 **Lech** の西 **zug** という町を目指す。前日にトポを見ながらルートを検討する。2人ずつの3チームに分かれてそれぞれマルチをすることに。山岳リゾートの **Lech** はさすがというべきか山が美しい。天気は曇りであった。岩山のある **Spuller** 湖周辺は山に囲まれ、車では **zug** からしかアクセスできない。08:30 頃に **zug** につくが **Spuller** 湖までは車のアクセスが 16:00-08:00 と制限され、その他の時間帯は歩きか湖までバスでアクセスしなければならないことが現地で発覚。ガイドブックにはそんなことは書いてなかった。仕方がないので 09:30 発のバスを待つ。事前に予定していたルートは湖からアクセスで2時間かかる上に11ピッチあったので、時間を考慮し違うルートを選択。湖からアクセス40分の **Alte Sudwand** を目指す。バスの料金は片道17€(高い)バスは20分ほどで湖のほとりに到着。やっぱり山が美しい。ここからは舗装されていない道のみになる。湖のほとりがあるき、とりつきに向かう、すると小雨が、、取りつきには草原を丘を登っていくのだが、どんどん濡れていく。スラブのスタートなのだが明らかに岩が濡れているので取りつき付近で停滞。ほぼ同じ時期に来たドイツ人も停滞していた。雨は弱く降り続き13時に撤退を決めた。山頂の稜線までは草付きで歩いていけそうであり、折角ならと思い、山を越えて戻ることにした。

稜線までは歩いていけたが反対側は切り落ちており、懸垂で降りることにした。凸角にロープをかけ80mを使って4ピッチ程度で下へ降りる。意外と傾斜が複雑であり残置無しでの下降に一苦労した。このエリアにはショートのマチピッチもあり、**Revensburger Hutt** に情報があるということで、そちらを目指すヒュッテは日本の山小屋に近いような形で寝床と食事が提供されるスタイルであった。

小屋の真横にはショートのマチルートもあり、それを登る。岩質は石灰に近く鋭くピン間は非常に近い。が隣のルートは7mほどランナウトがあるなど、そこまで整備されているエリアではなく、ルート図にも、(なにかしらのアンカー) マークがいくつかある。日が暮れ初め、バスもないため歩いてバスに乗りした付近の駐車場にもどる。3パーティのうち1パーティは隣でショートのマチを行っていたが、もう一組は2時ごろまで待機してルートにとりついたようだった。我々が19時ごろ峠についた際に彼らのルートにヘッドライトが見えた。連絡を取ると暗闇の中、懸垂下降中ということで、駐車場で待っていてほしいとのことだった。我々が駐車場に着いたのは21時頃だったが、彼らがたどり着いたのは23時頃であった。聞けば、ヘッドライトを見た人が通報しレスキューが取りつき付近まで駆けつけていたそうだ。パーティの一人Dはヘッドランプを忘れiPhoneの明かりで懸垂下降していたらしい。さすがワイルド。無事生還おめでとう。そこから **Bludenz** 付近まで戻り野営。

翌日は **Bürserschluft** で登る。溪谷に切り立つ岩がいきなり現れる。そんな場所であった。スラブのクラックが、有名らしいが目で敗退。壁は非常に高くほとんどが25m〜とりあえずアップしてカンテを登るラインにトライ。ホールドは分かりにくいがなんとか登る。こ

れまた丸石が混じり込んだような岩と石灰のミックスだ。チェコチームは持久力がすごい。下部で凄まじいボルダームーブをしても中盤で回復して終了点まで持っていく。にしても高い。自分は8の25mルートが2撃できたので少し満足。入国してから一回も水を浴びていないので、登った後は皆で渓谷で水浴び。めっちゃ冷たい。翌日の予報は雨でDたちはフランケンユーロに行く予定にいていた。我々は最終パリに戻らなければならず、少しルートがずれるためここで分かれることに。チェコ人はワイルドで強かった。ありがとうD。翌日は早朝に行ってみたかったLuner湖を歩きに行くことに。深夜に登り付きまで到着し車中泊したが濃霧がすごかった。早朝出発し湖までつくと霧は晴れ、美しい湖(今はダムとしても利用)とヨーロッパアルプスの山脈が広がっていた。このエリアにもクライミングエリアが多くあり山小屋もある、ロープウェイに乗り場にはトポが載っていた。下山し、その後はフォンテーヌブローでのボルダーも考えたが雨に打ち砕かれた。その後は有名なクライミングジムを訪れたりトポを探しながらパリへ戻った。

今回オーストリアにチェコ人と登りに行ったわけだが、トポはドイツ語であつたりとヨーロッパでの言語の壁を大きく感じた。チェコ人も英語ができる人、ドイツ語が分かる人も分かれる。またオーストリアはAustriaPinと書いてある独自のアンカーが多く使われていた。ペツルと違いそのままロープをかけ懸垂にも使えるモノであつたが耐久性は不明。ケミカルではなさそうであつた。またクライミングはメジャーなスポーツであるが岩場に入が多すぎるわけでもなく老若男女がクライミングに親しんでいる印象を受けた。オーストリアパンは安くてめっちゃうまい。日本で海外のトポをゲットするのは多少至難の業だが、Cordee.co.ukというイギリスのサイトはヨーロッパの広い範囲のトポを扱ってくれる上に海外発送も行ってくれるそう。次回から利用したい。ヨーロッパ。きれいであつた。少し日本の山がかすみました。

●その他情報

- ・スイスとオーストリアでは高速道路(アウトバーン含む)料金を年間で支払う必要があり、走行の際はガソリンスタンドなどで期間限定のスタンプを買う必要がある。
- ・ヨーロッパでもギアはそんなに安くない。

総運転距離 1000 km(7日間) レンタカー220€,軽油代 230€,高速代 50€



